

令和 8 年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会 議	部会名 第 2 回 権利擁護部会	日 時 令和 8 年 10 月 2 日(金) 13:30 ~ 15:00
	会場 伊那市防災コミュニティセンター 多目的ホール	参加者数 36 人
主 テ ー マ	(1) 開会・挨拶 (2) 講義と GW「福祉避難所の現状と支援について」 (3) 上伊那の情報・まとめ (4) その他	
	(1) 開会・挨拶 部会長挨拶 (2) 講義「福祉避難所の現状と支援について」 講師：長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 主幹 ① 能登半島地震 能登半島地震では、初動時の 1 次避難所が土足・雑居状態となり、衛生環境の悪化や感染症の蔓延、プライバシーの確保が課題となった。そのため、土足の解消や段ボールベッドの導入など、避難所の環境改善が進められた。また、1 次避難所と 2 次避難所をつなぐ中継拠点として「1.5 次避難所」が開設され、要配慮者の一時的な受け入れに一定の役割を果たした。一方で、要配慮者の長期滞留や医療・介護人材の不足、地域を離れた人が地元に戻れず、過疎化が進むといった課題も明らかになった。 ② 熊本地震 こうした能登半島地震の経験を踏まえ、熊本地震では「市外・町外に出さない支援」を基本方針とし、できる限り住み慣れた地域で生活を継続できる支援が進められた。しかし、平時からの協定の有無によって福祉避難所の受け入れ体制に差が生じるなど、事前の準備の重要性が浮き彫りとなった。また、指定・協定施設への直接避難ができず、専用窓口を通じた調整が必要となる場合もあり、開設当初には介護者のいない一人暮らしの高齢者など、重度の要配慮者が一般避難所に残される実態もみられた。 避難所での生活環境や食事についても課題があった。猛暑や約 2 か月にわたる断水の中、食事は当初レトルト食品が中心となり、食中毒予防のため調理場での調理が制限されたことから、揚げ物中心の弁当が続く状況もあった。その後、栄養士の助言を受け、地元業者の協力により、夏野菜のスープや野菜を多く取り入れた弁当へ改善されるなど、避難生活における「食」の質を高める取り組みが行われた。 [アンケートより(一部抜粋)] 実体験をもとに被災地の様子を具体的にお伺いでき、大変勉強になった。発災直後は、想像以上に混乱し、安心できる場所や必要な物がなく、誰もが困る状況であることを実感した。そのような中で“平時の備え”や災害対策の重要性を強く実感した。避難訓練を含め、自助・共助の面でも具体的に考えるきっかけとなった。福祉避難所に入るまでの手順・申請方法、避難所に入れない時はどうしたのか等のお話があればなお良かった。行政と施設で事前に(常に)よく話し合うことが必要と感じた。くり返しこういったお話を伺い、意識し、知恵を出し続けることが大切だと思う。 (3) 上伊那の情報・まとめ <ul style="list-style-type: none"> 災害時に食料支援を行うトラック「フーバー (FOOD HARBOR)」が上伊那圏域に配置となり、まず伊那市社会福祉協議会に配備(全国 4 番目、長野県内初)され、平時は生活困窮・ひとり親世帯等への食料支援、災害時はキッチンカー等として活用される。 「上伊那災害時支援ネットワーク」を立ち上げ、約 50 の企業・団体と協定を結び、発災初期の人的支援や場所・発電機・物資提供で協力する体制を整えている。 	

	<p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3回部会のご案内:令和9年1月26日(火)13:30~15:00 場所「伊那福祉まちづくりセンター」、内容「成年後見制度等について(仮)」にて開催予定。 アンケートへの記入・提出の協力依頼(次回テーマ「成年後見制度」に関する質問等の記入含む)。
まとめ	<p>講義を通じて、災害時の福祉避難所の運営だけでなく、平時からの協定や支援体制の整備、地域で暮らし続けるための支援、人材確保、生活環境や食事への配慮など、災害に備えた日頃からの準備の重要性について学ぶ機会となった。</p>
次回	<p>令和9年1月26日(火)13:30~15:00 場所:伊那福祉まちづくりセンター</p>